

# よろずは

平成二六年  
十月号

「記紀万葉の故地」シリーズでは、記紀万葉に記された地域にかかわる内容をご紹介します。

## 記紀万葉の故地 9

「記紀万葉の故地8」では、紀路のうち、真土山付近をとりあげました。今回の故地は、さらに二十キロメートルほど西に位置する背ノ山です。背ノ山は、「日本書紀」では畿内の南限として出てきますが、「万葉集」では行幸関係で歌が残されています。たとえば、次の阿閉皇女の歌があります。

これやこの 大和にしては わが恋ふる

紀路（おきぢ）にありといふ 名（な）に負（お）ふ背（せ）の山

（訳文）紀州路にあるとしてかねて大和で心ひかれていた背の山。

これこそ、その名にそむかぬ背の山よ。（巻第一の三五番歌）

噂に聞いていた背の山を、初めて実見し、感動した様子が詠まれています。背ノ山が、当時よく知られていたのは、やはり畿内と畿外の境界だったからなのでしょう。

ところで、背ノ山付近の紀路は、現在の国道や近世の奈良街道に近いと考えられてきましたが、最近では、さらに北方が想定されています。背ノ山の歌も、これに合わせて、見直す余地が出てくるかもしれません。【万葉古代学係】

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。



背ノ山から東を遠望  
現在の国道24号線が走り、右側には紀ノ川が流れている。